

第 33 回環境アセスメント動物調査手法講演会

日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研究部会では、1991 年から環境アセスメントや野外調査に従事しておられる技術者・研究者の方々を対象に、昆虫、野鳥、その他の動物の調査手法とデータ解析法を解説し、調査技術の一層の向上や野生生物の保全を目指す目的で講演会を開催しており、今年度は 33 回目となります。

今年度は、オンラインと対面のハイブリットとし、午後のみ 4 件の話題提供と致しました。

今回もできる限り最新情報を踏まえた内容を心掛け、企画した次第でございます。

具体的には「自然共生サイトの概要と事例について」「オオバナミズキンバイの水域生態系への影響と対策」「果樹におけるクビアカツヤカミキリの防除対策」「チョウ類の減少要因と保全の取り組み」の、計 4 演題で構成しております。環境アセスメントや野外調査に従事しておられる方にとりまして、役立つ内容となっております。日本環境動物昆虫学会の会員の皆様だけでなく、非会員の皆様にも是非、奮ってご参加頂けますこと、どうぞよろしくお願い申し上げます。

主催：日本環境動物昆虫学会

日時：2024 年 7 月 13 日（土）13：30～ ※12：00 までは入場できません

場所：大阪公立大学 I-site なんば（大阪市浪速区敷津東 2-8-1 南海なんば第一ビル 難波・大国町近く）

開催方法：現地会場ならびにオンライン（Zoom）によるハイブリット開催を予定しております。

オンラインの受講を希望された参加者様には、ID と PW をメールにてお送りいたします。

・全館 飲食禁止の徹底（ペットボトル可、蓋つきのカップのコーヒー不可）

企画・運営：生物保護とアセスメント手法研究部会

平井規央（部会長）、今井健介、上田昇平、加藤敦史、千々岩哲、中上喜史、林 成多、松野茂富、八尋克郎

内容：

1 自然共生サイトの概要と事例について（13：35～14：20）※オンライン

環境省 自然環境局 担当官

2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として保全する「30by30」達成手段の一つとして、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定しており、概要と事例を紹介する。

2 オオバナミズキンバイの水域生態系への影響と対策（14：20～15：05）

中井 克樹（滋賀県立琵琶湖博物館・特別研究員）

水陸両生植物・オオバナミズキンバイは水面に大規模なマット状群落を成長させ、他の動植物や人間活動に大きな影響を与える。今回は本種の生態的特性の概要と琵琶湖での対策の経緯、生育状況調査の方法等を紹介する。

3 果樹におけるクビアカツヤカミキリの防除対策（15：15～16：00）

弘岡 拓人（和歌山県果樹試験場 かき・もも研究所）

クビアカツヤカミキリは、核果類に深刻な被害を及ぼす侵入害虫である。早期発見と低密度維持のための除が重要だが、防除法は確立されていない。本講演では、果樹における各種防除法の効果を紹介する。

4 チョウ類の減少要因と保全の取り組み（16：00～16：45）

平井 規央（大阪公立大学）

チョウ類では絶滅危惧種が増加し、環境省レッドリスト 2020 では 42 種 8 亜種が掲載されている。また、13 の種と亜種が国内希少野生動植物種に指定されている。これらの減少要因について解説し、保全の事例を紹介する。

参加概要

<参加費>

会員 3,000 円（個人会員、法人会員（維持・賛助）の企業及び団体に所属されている方）

非会員 4,000 円 学生 2,000 円

<申し込み方法>

申込方法： 件名を「環境アセスメント講演会申し込み」とし

①氏名 ②ご所属、住所、メールアドレス、電話番号

③会員種別（本学会員（正、賛助、維持、学生）、非会員、学生） ④参加方法（会場、Web (Zoom))

以上 4 項目を記載し E mail（kandoukon@outlook.jp）までお送りください。

後日、受付終了の返信メールを送ります。1 週間以内に返信メールが届かない場合は再送信ください。

参加費は、下記、銀行振込にてお振込みください。

参加費振込先

三菱 UFJ 銀行 信濃橋支店 日本環境動物昆虫学会 普通 0264018